

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島文教大学
設置者名	学校法人武田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育	教育 (初等教育専攻)	夜・通信	20	20	77	117	13	
			19	8	46	73		
	教育 (中等教育専攻)	夜・通信	20	20	14	54	13	
			19	8	9	36		
人間科	人間福祉	夜・通信	20	0	116	136	13	
			19	1	100	120		
	心理	夜・通信	20	8	31	59	13	
			19	6	24	49		
	人間栄養	夜・通信	20	2	59	81	13	
			19	0	34	53		
	グローバルコミュニケーション	夜・通信	20	10	36	66	13	
			19	8	28	55		

(備考)

教育学部教育学科(初等教育専攻、中等教育専攻)、並びに人間科学部人間福祉学科、心理学科、人間栄養学科、グローバルコミュニケーション学科は、学年進行での教育課程の変更途上にあるため、「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」欄には、上段に新課程、下段に旧課程の各単位数を記載した。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載

<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島文教大学
設置者名	学校法人武田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	個人病院 院長	4年 令和6年4月1日～令和10年3月31日	経営全般
非常勤	医療法人 理事長	4年 令和6年4月1日～令和10年3月31日	経営全般
非常勤	株式会社 取締役会長	4年 令和6年4月1日～令和10年3月31日	経営全般
非常勤	株式会社 代表取締役	4年 令和6年4月1日～令和10年3月31日	経営全般
非常勤	株式会社 名誉会長	4年 令和6年4月1日～令和10年3月31日	経営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島文教大学
設置者名	学校法人武田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は、大学設置基準に定める「成績評価基準等の明示等」の内容を踏まえ、また、大学教育の質保証を担保する観点から策定した定義、役割、様式、成績評価方法の記入例のほか、「卒業認定・学位授与の方針」に沿ったコモンルーブリックを示したガイドラインにより作成する。</p> <p>記載項目としては、「ナンバリング」「オフィスアワー」「他学科履修区分」「履修条件」「授業のねらいと概要」「双方向性確立の方法」「授業計画(各回分)」「期末試験」「到達目標」「成績評価方法」「成績評価基準」「テキスト」「その他教材」などから成り、教務委員会が公開を前に第三者的な立場から各学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」に即して内容のチェックをおこなう。</p> <p>例年、2月初旬～3月初旬を授業科目担当者による作成・入力期間とし、履修登録開始時期の3月中旬にポータルシステムにおいて公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載</p> <p>https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>「広島文教大学授業科目履修規程」に、授業科目の履修及び学業成績の基準、成績評価、卒業要件等に関する内容を明示している。</p> <p>授業科目の学修成果の評価に関しては、授業計画書(シラバス)への記載のほか、学生に配付している『学生生活ハンドブック』において、「試験と成績評価について」として授業の参加の度合いや平素の学修状況、臨時試験(小テスト等)の成績、期末試験の成績、研究報告の成績等によって総合的に判定する旨を明記している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

「広島文教大学 GPA 制度取扱要項」において、「成績評価点」「GPA の算出方法」等に関して以下のとおり定め、学生に配付している『学生生活ハンドブック』にも掲載し周知しているほか、成績の分布状況等を把握し、履修指導、学修成果の評価、卒業判定等に役立てている。

〈以下、関係分 抜粋〉

(成績評価点)

第2条 成績評価点（以下「GP」という。）は、次の基準により行う。

成績評価	表示	成績	GP
秀	S	90～100点	4.0
優	A	80～89点	3.0
良	B	70～79点	2.0
可	C	60～69点	1.0
不可	D	60点未満	0

2 成績表示がE（失格）の場合、GP値は0とする。

3 成績評価の詳細は、各教員がシラバスに示した方法による。

4 成績表示が「D」となった科目について再試験を受験した場合、従前の成績評価は、再試験後の成績評価のGPに置き換えることとする。

5 第3条に規定する通算GPA値が2.0未満の学生は、前期では履修登録期間終了まで、後期では履修登録変更期間終了までに、当該学期から卒業するまでの履修について担当チューターによる指導を受け、その内容を所定の履修計画書にまとめ、所属学科長の承認を得て学生サポート課に提出することとする。

(GPAの算出方法)

第3条 GPAには、在学期間を通して算出した通算GPA、年度ごとに算出した年度GPA及び学期ごとに算出した学期GPAがあり、いずれもその計算方法は、次のとおりとし、計算値は、小数点以下第2位を四捨五入して表記する。

$$\frac{4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（算出時にH、Iとなった単位数を除く。）}}$$

(GPAの対象とならない科目)

第4条 評点を示さず、認定によって単位を修得した科目については、GPAの対象とならないこととする。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載
<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、「卒業認定・学位授与の方針」を定め、建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とし、その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に基づく「(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力 (実践力)」「(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢 (自律性)」「(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力」「(4) 専門的な知識・技能の活用力」「(5) 豊かな人間性 (育心育人)」といった能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標としている。</p> <p>なお、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる教育目標の達成状況については、「教育課程編成・実施の方針」に照らし、「学修成果の評価に関する方針」に基づく「卒業研究」「総括テスト、レポート等」「育心アンケート」による評価のほか、各種採用試験・国家試験の合格率、資格の取得状況などについても評価の観点として設定しており、卒業判定にあっては、学則において「広島文教大学授業科目履修規程」に定める所定の卒業要件を満たした者について、教授会における協議を経て学長が卒業を認定することとしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島文教大学
設置者名	学校法人武田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページの「情報公開(事業報告・財務情報)」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/finance/
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページの「情報公開(事業報告・財務情報)」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/finance/
財産目録	大学ホームページの「情報公開(事業報告・財務情報)」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/finance/
事業報告書	大学ホームページの「情報公開(事業報告・財務情報)」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/finance/
監事による監査報告(書)	大学ホームページの「情報公開(事業報告・財務情報)」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページの「情報公開」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部教育学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
（概要） 「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」により、教育学部教育学科の人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。 教育学部教育学科は、教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
（概要） 建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心 育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とする。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に定める本学科の目的に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標とする。 (1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力） 自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。 (2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性） 予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身に付けることができます。 (3) リテラシーに基づくコミュニケーション力 言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。 (4) 専門的な知識・技能の活用力 教職、教科教育及び保育等の教育学に関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。 (5) 豊かな人間性（育心 育人） 「育心 育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身に付けることができます。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養教育科目及び専門教育科目、その他必要と考える科目を体系的に配置し、教育目標との関連を示すためにナンバリングをおこなう。また、学修系統を容易に把握できるように、科目の関係をカリキュラムマップにより明示する。なお、本学科の学修内容、学修方法、学修成果の評価の在り方については、以下のとおりとする。 1. 学修内容 (1) 教養教育では、現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルと

ともに、たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこなう。

(2) 語学教育では、英語学修専用施設(Bunkyo English Communication Center)を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかる。

(3) 専門教育では、教育学の体系性に基づいて、科目を適切な学年・期に配置し、その関連性をカリキュラムマップによって示す。

2. 学修方法

(1) 双方向性を実現し、能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用する。

(2) 自律学修習慣を身につけるために、「育心の時間」（オフィスアワー）を活用して学修成果評価後の指導を実施する。

(3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために、少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。

(4) 教育者として求められる豊かな人間性を育成するために、「プログラム育心」を実施する。

3. 学修成果の評価の在り方

学科全体に関わる評価は学科長によって、学年別の評価はチューターによって、専門教育科目の GPA に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 <https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために、教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる以下の資質を持った入学者を求め、多様な選抜方法を実施する。

(1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。

(2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語を中心とした学習を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身に付けている。

(3) 自立するために必要な教育学に関する専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。

(4) 本学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

<p>学部等名 人間科学部人間福祉学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」により、人間科学部人間福祉学科の人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。</p> <p>人間科学部人間福祉学科は、誰もが安心していきいきと暮らすことができる、福祉社会を支える知識と技術をもった心豊かな人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心 育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とする。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に定める本学科の目的に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標とする。</p> <p>(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力） 自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。</p> <p>(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性） 予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身につけることができます。</p> <p>(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力 言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能の活用力 個人の尊厳を重視し支援する能力等の社会福祉学に関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。</p> <p>(5) 豊かな人間性（育心 育人） 「育心 育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身につけることができます。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養教育科目及び専門教育科目、その他必要と考える科目を体系的に配置し、教育目標との関連を示すためにナンバリングをおこなう。また、学修系統を容易に把握できるように、科目の関係をカリキュラムマップにより明示する。なお、本学科の学修内容、学修方法、学修成果の評価の在り方については、以下のとおりとする。</p> <p>1. 学修内容</p> <p>(1) 教養教育では、現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルを身につけるとともに、たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこなう。</p> <p>(2) 語学教育では、英語学修専用施設（Bunkyo English Communication Center）を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかる。</p> <p>(3) 専門教育では、社会福祉学の体系的に基づいて、科目を適切な学年・期に配置し、その</p>

関連性をカリキュラムマップによって示す。

2. 学修方法

- (1) 双方向性を実現し、能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用する。
- (2) 自律学修習慣を身につけるために、「育心の時間」（オフィスアワー）を活用して学修成果評価後の指導を実施する。
- (3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために、少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (4) 福祉マインドに基づく豊かな人間性を育成するために、「プログラム育心」を実施する。

3. 学修成果の評価の在り方

学科全体に関わる評価は学科長によって、学年別の評価はチューターによって、専門教育科目の GPA に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 <https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために、教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる以下の資質を持った入学者を求め、多様な選抜方法を実施する。

- (1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。
- (2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語を中心とした学習を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身につけている。
- (3) 自立するために必要な社会福祉学に関する専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。
- (4) 本学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

<p>学部等名 人間科学部心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」により、人間科学部心理学科の人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。</p> <p>人間科学部心理学科は、心身の健康に関する専門的な知識や技能を身につけた、リーダーとして地域に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心 育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とする。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に定める本学科の目的に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標とする。</p> <p>(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力） 自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。</p> <p>(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性） 予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身につけることができます。</p> <p>(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力 言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能の活用力 心の多様性と普遍性を理解し、それをもって社会貢献する能力等の心理学に関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。</p> <p>(5) 豊かな人間性（育心 育人） 「育心 育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身につけることができます。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養教育科目及び専門教育科目、その他必要と考える科目を体系的に配置し、教育目標との関連を示すためにナンバリングをおこなう。また、学修系統を容易に把握できるように、科目の関係をカリキュラムマップにより明示する。なお、本学科の学修内容、学修方法、学修成果の評価の在り方については、以下のとおりとする。</p> <p>1. 学修内容</p> <p>(1) 教養教育では、現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルとともに、たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこなう。</p> <p>(2) 語学教育では、英語学修専用施設（Bunkyo English Communication Center）を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかる。</p> <p>(3) 専門教育では、心理学の体系性に基づいて、科目を適切な学年・期に配置し、その関連</p>

性をカリキュラムマップによって示す。

2. 学修方法

- (1) 双方向性を実現し、能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用する。
- (2) 自律学修習慣を身につけるために、「育心の時間」（オフィスアワー）を活用して学修成果評価後の指導を実施する。
- (3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために、少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (4) 人間に関する専門職業人として社会貢献する上で必要な豊かな人間性を育成するために、「プログラム育心」を実施する。

3. 学修成果の評価の在り方

学科全体に関わる評価は学科長によって、学年別の評価はチューターによって、専門教育科目の GPA に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 <https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために、教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる以下の資質を持った入学者を求め、多様な選抜方法を実施する。

- (1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。
- (2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語を中心とした学習を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身につけている。
- (3) 自立するために必要な心理学に関する専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。
- (4) 本学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

学部等名 人間科学部人間栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
<p>（概要）</p> <p>「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」により、人間科学部人間栄養学科の人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。</p> <p>人間科学部人間栄養学科は、健康及び食に関する専門的な知識や技術と豊かな人間性を身につけた人材を育成する。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
<p>（概要）</p> <p>建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心 育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とする。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に定める本学科の目的に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標とする。</p> <p>(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力） 自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。</p> <p>(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性） 予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身につけることができます。</p> <p>(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力 言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能の活用力 食生活や健康に関わる課題を科学的に解決する能力等の栄養学に関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。</p> <p>(5) 豊かな人間性（育心 育人） 「育心 育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身につけることができます。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/ ）
<p>（概要）</p> <p>卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養教育科目及び専門教育科目、その他必要と考える科目を体系的に配置し、教育目標との関連を示すためにナンバリングをおこなう。また、学修系統を容易に把握できるように、科目の関係をカリキュラムマップにより明示する。なお、本学科の学修内容、学修方法、学修成果の評価の在り方については、以下のとおりとする。</p> <p>1. 学修内容</p> <p>(1) 教養教育では、現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルとともに、たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこなう。</p> <p>(2) 語学教育では、英語学修専用施設（Bunkyo English Communication Center）を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかる。</p> <p>(3) 専門教育では、栄養学の体系性に基づいて、科目を適切な学年・期に配置し、その関連</p>

性をカリキュラムマップによって示す。

2. 学修方法

- (1) 双方向性を実現し、能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用する。
- (2) 自律学修習慣を身につけるために、「育心の時間」（オフィスアワー）を活用して学修成果評価後の指導を実施する。
- (3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために、少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- (4) 食生活や健康の向上に貢献しようとする豊かな人間性を育成するために、「プログラム育心」を実施する。

3. 学修成果の評価の在り方

学科全体に関わる評価は学科長によって、学年別の評価はチューターによって、専門教育科目の GPA に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 <https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために、教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる以下の資質を持った入学者を求め、多様な選抜方法を実施する。

- (1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。
- (2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語を中心とした学習を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身につけている。
- (3) 自立するために必要な栄養学に関する専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。
- (4) 本学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

<p>学部等名 人間科学部グローバルコミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」により、人間科学部グローバルコミュニケーション学科の人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。</p> <p>人間科学部グローバルコミュニケーション学科は、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心 育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的とする。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」に定める本学科の目的に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標とする。</p> <p>(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力） 自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。</p> <p>(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性） 予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身につけることができます。</p> <p>(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力 言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能の活用力 言語の公共的使用能力等のコミュニケーション学、及びこれに関連する応用的かつ実践的領域に関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。</p> <p>(5) 豊かな人間性（育心 育人） 「育心 育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身につけることができます。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/）</p>
<p>（概要）</p> <p>卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養教育科目及び専門教育科目、その他必要と考える科目を体系的に配置し、教育目標との関連を示すためにナンバリングをおこなう。また、学修系統を容易に把握できるように、科目の関係をカリキュラムマップにより明示する。なお、本学科の学修内容、学修方法、学修成果の評価の在り方については、以下のとおりとする。</p> <p>1. 学修内容</p> <p>(1) 教養教育では、現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルとともに、たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこなう。</p> <p>(2) 語学教育では、英語学修専用施設（Bunkyo English Communication Center）を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかる。</p>

(3) 専門教育では、コミュニケーション学、及びこれに関連する応用的かつ実践的領域の体系性に基づいて、科目を適切な学年・期に配置し、その関連性をカリキュラムマップによって示す。

2. 学修方法

(1) 双方向性を実現し、能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用する。

(2) 自律学修習慣を身につけるために、「育心の時間」（オフィスアワー）を活用して学修成果評価後の指導を実施する。

(3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために、少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れる。

(4) 実践的生活を超えた生き方へのまなざしを獲得し、豊かな人間性を育成するために、「プログラム育心」を実施する。

3. 学修成果の評価の在り方

学科全体に関わる評価は学科長によって、学年別の評価はチューターによって、専門教育科目の GPA に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 <https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために、教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる以下の資質を持った入学者を求め、多様な選抜方法を実施する。

(1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。

(2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語を中心とした学習を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身につけている。

(3) 自立するために必要なコミュニケーション学、及びこれに関連する応用的かつ実践的領域に関する専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。

(4) 本学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
教育学部	－	9人	5人	9人	0人	1人	24人
人間科学部	－	16人	14人	15人	2人	8人	55人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		106人				106人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載 https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育	150人	133人	88.7%	600人	637人	106.2%	0人	0人
人間科	240人	130人	54.2%	1030人	754人	73.2%	70人	3人
合計	390人	263人	67.4%	1630人	1391人	85.3%	70人	3人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育	150人 (100%)	3人 (2.0%)	141人 (94.0%)	6人 (4.0%)
人間科	261人 (100%)	7人 (2.7%)	236人 (90.4%)	18人 (6.9%)
合計	411人 (100%)	10人 (2.4%)	377人 (91.7%)	24人 (5.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>年間の授業計画に関しては、学部・学科等の各年次の教育課程により編成する。</p> <p>授業計画書(シラバス)は、大学設置基準に定める「成績評価基準等の明示等」の内容を踏まえ、また、大学教育の質保証を担保する観点から策定した定義、役割、様式、成績評価方法の記入例のほか、「卒業認定・学位授与の方針」に沿ったコモンルーブリックを示したガイドラインにより作成する。</p> <p>記載項目としては、「ナンバリング」「オフィスアワー」「他学科履修区分」「履修条件」「授業のねらいと概要」「双方向性確立の方法」「授業計画(各回分)」「期末試験」「到達目標」「成績評価方法」「成績評価基準」「テキスト」「その他教材」などから成り、教務委員会が公開を前に第三者的な立場から各学部・学科の「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」に即して内容のチェックをおこなう。</p> <p>例年、2月初旬～3月初旬を授業科目担当者による作成・入力期間とし、履修登録開始時期の3月中旬にポータルシステムにおいて公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>「広島文教大学授業科目履修規程」に、授業科目の履修及び学業成績の基準、成績評価、卒業要件等に関する内容を明示している。</p> <p>授業科目の学修成果の評価に関しては、授業計画書(シラバス)への記載のほか、学生に配付している『学生生活ハンドブック』において、「試験と成績評価について」として授業の参加の度合いや平素の学修状況、臨時試験(小テスト等)の成績、期末試験の成績、研究報告の成績等によって総合的に判定する旨を明記している。</p> <p>また、「広島文教大学GPA制度取扱要項」において、「成績評価点」「GPAの算出方法」等を明示し、成績の分布状況等の把握をもって、履修指導、学修成果の評価、卒業判定等に役立てている。</p> <p>なお、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる教育目標の達成状況については、「学修成果の評価に関する方針」に基づく「卒業研究」「総括テスト、レポート等」「育心アンケート」による評価のほか、各種採用試験・国家試験の合格率、資格の取得状況などについても評価の観点として設定し、卒業判定にあつては、学則において「広島文教大学授業科目履修規程」に定める所定の卒業要件を満たした者について、教授会における協議を経て学長が卒業を認定することとしている。</p>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育	教育	128 単位	有	各学期 原則 24 単位
人間科学	人間福祉	124 単位	有	各学期 原則 24 単位
	心理	124 単位	有	各学期 原則 24 単位
	人間栄養	124 単位	有	各学期 原則 24 単位
	グローバルコミュニケーション	124 単位	有	各学期 原則 24 単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページの「教育情報の公表」ページ上に掲載

<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/airing/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育	教育	760,000 円	270,000 円	260,000 円	「その他」欄は「教育維持費」
人間科学	人間福祉	760,000 円	270,000 円	260,000 円	「その他」欄は「教育維持費」
	心理	760,000 円	270,000 円	260,000 円	「その他」欄は「教育維持費」
	人間栄養	760,000 円	270,000 円	310,000 円	「その他」欄は「教育維持費」
	グローバル コミュニケーション	760,000 円	270,000 円	260,000 円	「その他」欄は「教育維持費」

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学習支援室を開設し、担当職員が学生の学習上の悩みや疑問等の相談を受け付け、個々の解決支援に当たっている。また、学習支援室に隣接し ILS (Independent Learning Suite) を整備し、静穏な個別学習環境を提供している。</p> <p>また、障害学生支援委員会では、障害学生が修学しやすい施設、設備、教育活動の整備の推進、障害学生の修学支援などを担っている。</p> <p>このほか、成績優秀学生や TOEIC 等の高スコアの留学希望学生に対する奨学制度のほか、経済的事情により学資援助を要する学生、災害により被災した学生に対する奨学制度などを設けている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャリアセンター・就職課では、社会人基礎力を計画的・段階的に身に付けられるよう、1 年次から参加可能なキャリアプログラム (キャリア形成支援ガイダンス、業界研究セミナーなど) を開設している。</p> <p>また、「小規模大学だからこそできる個別支援」を念頭に、専門性の高いコンサルタント資格を有する職員が就職相談、指導、助言に当たり、学生一人ひとりの進路実現に向け親身に支援をおこなっている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保健室では、健康診断の実施、健康相談、ケガをした場合の応急処置、体調不良時の休息場所の提供など、学生の心身の健康維持・管理の業務を担っている。</p> <p>また、学生相談室では、相談員としてカウンセラー (臨床心理士) を配置し、心身の問題のみならず、学生の大学生活全般に関わる悩み等に対して相談を受け付け、個々の解決支援に当たっている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページの「情報公開」ページ上に掲載

<https://www.h-bunkyo.ac.jp/university/about/disclose>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F134310109893
学校名 (〇〇大学 等)	広島文教大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人武田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		211人	204人	222人
内訳	第Ⅰ区分	125人	112人	
	第Ⅱ区分	51人	62人	
	第Ⅲ区分	35人	30人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				222人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
		年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	—	人	人	
GPA等が下位4分の1	27人	人	人	
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	20人	人	人	
計	30人	人	人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。